

## 自然をより一層理解するために

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-12-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 竹内, 正辰 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00026125">https://doi.org/10.14945/00026125</a>

# 自然をより一層理解するために

竹 内 正 辰

昭和39年5月静岡県地学会が発足して以来、会の運営は円滑にすすみ、今日会員数200名を越すようになりました。この間前会長佐々倉先生を中心として、また先生御逝去後は副会長の小川賢之助先生を中心として、委員各位が献身的な努力をはらわれたことを衷心から感謝申し上げます。

さて去る5月28日総会において、本年度の会長として不肖私が選ばれました。何分浅学でして大任を果すことができるかどうかを案じていますが、幸い委員各位の活発な企画と実行を期待して会を運営する組織になっていますので、駄馬にむちうって会員各位の御希望にそう方向に会を発展させるべく努力をおしまない覚悟であります。

地学は理科の一部門ではありますが、物、化、生とはちがいで質的、天文学的長時間を加味した現象をとりあつかうことと、その現象が非実験室的であるために、取り扱いにくい教材とされています。我々は日常生活においてたえず自然現象に接しているのではありますが、これを無頓着に取り扱ったり、ときには気をくばらないことすらあると言えましょう。自然界におこる事象を自然のままに観察したり考えたりすることにおいて、地学程自然に関係のふかい学科はありません。小・中学校の教科内容に、自然を観察したりその事象をとりあつかう部門が甚しく多いのも、自然現象から理科的知識を育成するのが都合のよいことを物語っています。我々人類が自然の環境を背景として生活を営む以上、自然をもっと知り、もっと愛したいものですし、もっと尊びたいものです。

いま、広い意味の自然科学を、“人工技術に関係深い科学”と“自然界を研究する科学”とに分けてみることにします。前者の特徴は事象の実験的実証にありまして、それが基礎となって創造の技術が生まれ、新製品の製造から発明行為があらわれますし、自然の営力を利用して人工衛星をとばしたり、宇宙空間の游泳すらできます。このようにして人工科学は最近長足の進歩をとげていますが、今後はどのような方向に発達してゆくのでしょうか。ところが自然界を研究する科学は、現象の成因を実証することが困難で、したがって現象を人為的に創造することができません。それにしても人工科学の発達によって、優秀な測定器械ができたために、自然現象を解析的にしらべられるようになってきました。その結果自然現象を人類が利用することができるようになりました。上にのべた人工衛星や空間游泳などはそのよい例でしょうが、今後はこのように自然を利用した人工科学が一層発達するでしょう。ところが最近“人類の自然への挑戦”とか“自然環境の改造”とかがさげばれています。もし我々が人工科学をマスターした自信におぼれて、自然現象の成立している機構を解明しないで、単に自然現象に攻撃するようなことがあれば、人工科学は悪用されることになるかもしれません。自然現象には今日まだ解明されていないことが甚だ多いのですから、将来の科学の発達のために、その研

究は急務であります。

この研究にたづさわる学科は、なんとといっても、地学をのぞいてはほかにはありません。地学的問題はまず観察にはじまり、それから推理をおしすすめる方法をとって研究をつづけますが、この観察と推理はつねに密接な関連をもっています。動植物の形態を観察によって知る要領とは少しくいちがいが、例えば断層をみた場合には、断層形式を知るばかりでなく、何時どうして断層がおきたかを考えるでしょう。このような思考の過程は、古い時代の地質学者が述べているように、地殻にあらわれているすべての事象は、人文歴史における古文書の役をしているから、地質という古文書を読解するよりほかの操作ではありません。したがって私ども地学に少しでも関係のあるものは、自然が残した古文書を読解する能力がなければ、自然を批判したり、自然に抵抗する資格はないはずで。

ところが、私たちは案外自然の事象に無頓着です。先きにも申しましたが、もう一度言いたい程これが現代人の通性です。日本人が過密の人口をかかえて、このせまい国土を開発してゆく上にも、人類がほとんど生活していない海外の大自然地域を卒先して開発しようとする将来の世界的日本人のことを考えても、我々はもっと自然を理解しなければいけないと思います。今日までの教育の方法にも欠陥がないでもないでしょう。もし欠陥があるとすれば、改革する前に、お互いにもっと自然を理解するようにつとめたいものです。その上で当然改革案が考えだされるでしょう。

理科という学科が実験を尊重することは誰しも知っています。けれども地学の勉強に自然の観察が必要であることを知っている人は必ずしも多いとは言えないでしょう。地学にも室内実験はありますが、自然の観察はそれ以上に大切な実験です。地学の書物には、観察経験なくしては理解することができないことが非常に多く書かれています。本会の設立の主旨は、地学に関係のある方とか興味をもって居られる方には、研修の場として、また地学に無関係の方には、地学の内容とその真髓の一部たりとも知っていただく場として活用していただくことにあります。設立以来鳳来寺、牧ノ原台地、日本平、富士山周辺などに巡検に出掛け、参加者は沢山の資料を採取して帰り、各人印刷資料にしたがって、その都度研修を重ねてきました。そして本年度も別の地方をえらんで、観察研修の機会をできるだけ多く計画しています。またときには気象観察・天体観察を積極的にすすめたいと委員一同は計画中です。幸い本会は設立日も浅いに拘らず会員各位から激励の御手紙をいただいて居ります。運営を企画する我々の立場の者はうれしい至りであります。けれども県下の学校数と理科教官数とから現会員数をみますと、本会が県下教育界に貢献している実績はまだ微々たるものです。会は会員の希望にしたがって運営を計るべきでありますので、会員各位の熱心な御希望を期待しています。

どうか御知り合いに入会をすすめていただき、会の行事に積極的に参加いただいて、本会が県下地学教育の側面援助機関として発展することを願いたします。